猫ひっかき病の一例

福山祐子　小野田友男　冨永　進
野宮重信　岡野光博　西崎和則
岡山大学医学部歯学部附属病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科

猫ひっかき病（cat-scratch disease）は，その起炎菌がBartonella henselaeであることが近年，明らかとなり，血清学的に診断が可能となったが，耳鼻咽喉科領域での報告はわずかである．

このたび，頸部腫瘤と発熱で受診し，血清学的に診断，内服加療にて軽快した症例を経験したので報告する．

症例は11歳女児．平成16年11月25日に初診された．左顔面から頸部にかけてリンパ節腫脹がみられた．耳前部リンパ節は粥状化しており，前医にて切開排膿されていた．

穿刺細胞診や結核の検索とともに血清Bartonella henselae抗体価（IFA）を調べたところ，IgGが256TITER（正常64未満）IgMが32TITER（正常16未満）であった．このため，猫ひっかき病と診断した．治療は，初診日からアジスロマイシンの三日間の内服を2～3週間おきに合計3回おこなった．内服開始1週間目に解熱，2ヵ月後にリンパ節腫脹は消失した．

質疑応答

質　問　大越　俊夫（東邦大第2講座）

猫ひっかき病の発症率，また再発はどうか？

応　答

口移しでエサを与えるなどの濃厚な接触による感染の報告がありCSD感染・発症は咬傷の存在は絶体でない．またイヌやサルでも感染の報告がある．

投与薬について：AZMが現在唯一，二重盲検で有効性が報告されている．本症例もAZMのみにて解熱，リンパ節腫脹が消失できた．日本の飼育猫では8～9％が抗体陽性である．そのまま飼育していて再発した，という報告は不明である．

連絡先：福山　祐子
〒700-8558
岡山市鹿田町2-5-1
岡山大学医学部
歯学部附属病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科
TEL　086-235-7307　FAX　086-235-7308